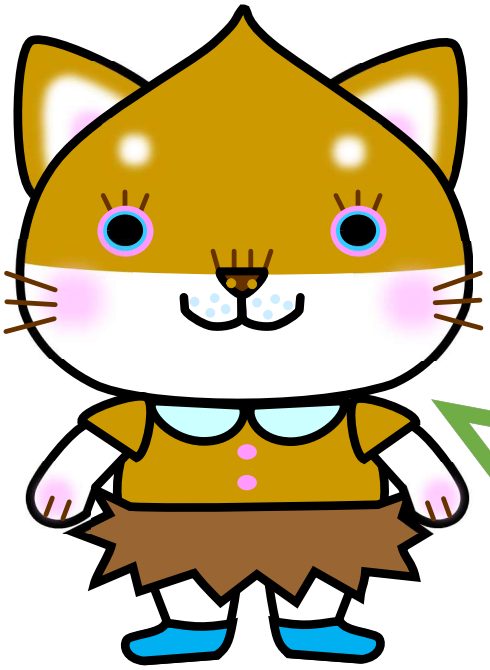
2025年の読書週間は
10月27日～11月9日です

NO. 169 2025. 10. 1 牟礼図書館 発行

ほんのくに



みんな、こんにちは！むれとしょかんの
キャラクター、みゃっくりだよ！！
　ことし の なつ は あつかったね～。
これからの きせつは、ほん を よむのに
ぴったりだよ。
あたらしい ほん も はいっているから、
かりに きてね。

みゃっくりおすすめのあたらしいほん

乳幼児
絵本

『おにぎり ぱく！』
はらぺこめがね/さく
白泉社 E/ハラ（0601475387）
おにぎり ぱくぱく。
なかみは なにかな？ しゃけ！ おかか！
じゃあ でっかい おにぎりのなかみは？
いろんな おにぎりが たべたくなる
えほん。

乳幼児
絵本

『ちいさなかくれんぼ』
松永 悠一郎／さく
福音館書店 E／マツ（0601474117）
おや おや かくれているのは だあれ？
あら こんにちは。
はっぱからは ありさんが
きの うえこみ からは すずめさんが
かおを のぞかせます。

1・2年生

『おばけ村のスーパードクターG
～まほうのドクターかばん～』
藤　真知子/作　川原　端丸/絵　ポプラ社
913/フシ（0601475213）

お医者さん１年生のゴーさんは、ひょんな事からおばけ村のお医者さんになることに。でもおばけの病気やけがの原因は人間にあって・・・。

はじめて１人で読む本にピッタリの１冊です。

1・2年生

『おもしろ踏切大百科
全国のユニークな踏切が大集合！』
イカロスのりもの Kids 編集部/編
イカロス出版　516/オモ（0601475197）

踏切といってもさまざまな装置が使われていて、それぞれ大切な役割をしています。踏切の仕組みを知っていれば、踏切につかまっても音や動きを楽しんで待っていられるかも…。

本をよむのが にがてな人は、「なんだろう？」と きょうみを もっていることなど、知りたいことが 書かれている本を えらんでみては どうでしょう。「ものがたり」のほかにも、おもしろいものは たくさんありますよ。

3・4年生

『ぼくらのお祝いごはん』
落合　由佳/著　井田　千秋/絵
講談社 383/オチ（0601468135）

６年生の卒業祝いのため、和食を作ることになった和と心春。なにを作ればいいのかな？

季節や旬を大切にし、食材に意味をこめ受け継がれてきた食文化を、物語を通して学べる１冊です。

3・4年生

『マイヤーさんと 大きくなりすぎた犬』
リリアン・ムーア　レオーネ・アデルソン/作
kei saito/絵　小宮　由/訳　さ・え・ら書房
933/ムア（0601471923）

マイヤーさんは、怖い犬を捕まえるのが仕事です。そんな仕事をする人はきっと怖い人に違いないと、町のみんなは彼を恐れています。でもマイヤーさんには誰にも言えない、ある秘密がありました。

5・6年生

『ぼくへのレファレンス』

岩崎まさえ/作　黒須　高嶺/絵

国土社　913/イワ（0601473291）

夏休み前、ぼくは体験学習で図書館に行った。そこで一人の男の子から「きみに頼みたいんだ」とレファレンスを受けた。どうしてぼくに？とは思ったけど、調べてみると昔の一揆が関係していると分かって…。郷土資料から現地に向かい、隠された真実を見つける物語。

5・6年生

『人生がうまくいくコミュニケーション図鑑

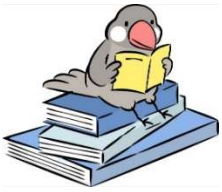
～神様が教えてくれた人間関係のヒント～』

斉藤　徹/監修

Gakken　361/シン（0601475205）

学校・家庭・社会で必要となってくるコミュニケーション能力について、具体的な例で紹介されています。

「合わない友人とどうやって付き合ったらいい？」「大人に解ってもらいたい！？」など、身近な困りごとを、解りやすいイラストとマンガでアドバイスしてくれますよ。



図書館のＹＡ（ワイエー）コーナーには、１３歳から１９歳までの人にむけた本を選んでいます。いろいろなジャンルの本があるので、ぜひ来てください。もちろん、ＹＡ以外の年齢の人にも読んでもらえますよ。

YA

『１３歳からのジャーナリング

感情を書き出して頭と心を整える

神とペンがあればすぐできる！』

藤本　志乃/監修　メイツ出版

498/シユ（0601471931）

ジャーナリングとは、心がもやもやしたとき、それらをありのままに書き出すこと。紙とペンさえあればいつでもできます。

公認心理師が、これから大人になっていく皆さんへ「自分とはなにか」を知る大切さ、ストレスとの向き合い方をやさしく教えてくれます。

YA

『そこに言葉も浮かんでいた　文芸部』

おおぎやなぎ　ちか/作　彩田　花道/絵

新日本出版社　913/オオ（0601464274）

中学１年生の栞奈は、目標ややりたいことが見つからず、周りの人に置いてかれたように感じていました。ある日、公園で出会った高見先輩に、強引に誘われて文芸部の門をたたくことに。臆せず書くことに挑戦し、講評に一喜一憂する仲間に刺激を受けながら、成長していきます。

牟礼図書館だより

☆事業報告☆

夏休み講座　親子であそぼう
８月17日(日)10:00～　２階　講座室

暑い中、たくさんの親子が参加してくれました。
絵本の読み聞かせのあと、
新聞を使った工作をしました。
この夏の思い出の一つになるといいな。

◇たまにはこんな読み方はどうでしょう◇

『モモ』で知られるミヒャエル・エンデの作品に『ロドリゴ・ラウバインと従者クニルプス』があります。

この本は344pからなるファンタジーで、クニルプスが善悪を知るため、人形劇団の家（といっても馬車ですが）を抜け出して、悪名高いロドリゴ・ラウバインに会いに行くことから始まります。作者は二人。エンデとヴィーラント・フロイントです。

始まりの3章はエンデの遺稿をもとに書かれ、終わりの16章までは、フロイントによって書かれています。

遺稿は長年の友人であるロマン・ホッケ氏が編集し、『だれでもない庭―エンデが遺した物語集』に「盗賊騎士ロドリゴ・ラウバインと従者のチビクンー長編小説の断片（フラグメント）」として収められています。ホッケによると、「テーマとなっている「悪」や「おそれ」についての理念が見つからなかったため未完なのではないか」とのこと。「断片」というには完成度が高いとも言っています。

フロイントの続けた話は、クニルプスの純真で真直ぐな勘違いが元で、あらぬ方向へと進んでいきます。クニルプスの成長物語というよりはユーモアある冒険譚で、読み易く楽しめます。作中、エンデを彷彿とさせる言い回しもあり、楽しみの一つとなっています。

あとがきによると、フロイントは10歳の時に『はてしない物語』に夢中になり、エンデの影響で自身も児童文学の道を進み、20余年後にエンデの遺稿を完成させたとあります。それにしても、ファンタジーの大家、ミヒャエル・エンデの遺稿に続きを書くなんて！ヴィーラント・フロイントの覚悟は想像できませんが、こうして新たに命を得た物語を楽しむことができるのです。（S）

○『ロドリゴ・ラウバインと従者クニルプス』←小学校中学年くらいからおすすめです
【ミヒャエル・エンデ+ヴィーラント・フロイント/著　木本　栄/訳　小学館　2022年　943/エン（0601392731）】

○『だれでもない庭－エンデが遺した物語集』
【ロマン・ホッケ/編　田村　都志夫/訳　岩波書店　2002年　9487/エン（0600253215）】